

モロッコ政治月報(1月)

2015年2月23日
在モロッコ大使館

1月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- 「ジュンド・アル・ヒラーファ(カリフの兵士)」関係者の逮捕(1月25日)
- ウアタラ コートジボワール大統領のモロッコ訪問(1月20 - 24日)
- モハメッド6世国王と潘基文事務総長との電話会談(1月22日)
- モロッコ・仏間の司法協力再開の決定(1月31日)

< 内政・政局 >

1 モロッコ北部でのテロ細胞の解体

(1)内務省は13日、モロッコ北部のスペインの飛地セウタ近くで3名からなるテロ細胞を解体したと発表した。

(2)内務省によれば、この細胞のメンバーはISILのアブーバクル・アル・バクダディに忠誠を誓っており、うち一人は当人の兄弟をイスラム国戦闘員としてシリア及びイラクに送り込んでいる。このグループは、昨年8月にモロッコ北部及びフェズで解体された別のテロ細胞と密接な関係にあった。

2 「ジュンド・アル・ヒラーファ(カリフの兵士)」関係者の逮捕(ウジュダ)

(1)内務省は25日夜、(アルジェリアで)フランス人エルベ・グルデル氏を殺害したと主張している「ジュンド・アル・ヒラーファ」のメンバーと目される男をウジュダ付近(ウジュダの北約30km、アルジェリア国境付近)で逮捕したと発表した。このアルジェリア人は特に銃器を含む多くの危険物を所持していた。

(2)モロッコ・アルジェリア間の長い国境は両国政治対立により、20年以上にわたって閉鎖されている。同国境にはモロッコ・アルジェリア双方が障壁や堀を設置し監視を強化しているが、密輸の温床となり、それに乗じてテロ細胞が行き来しているとされる。

< 外交・国際関係 >

1 メズアール外務・協力大臣の訪仏

- (1) 1月上旬のパリにおけるテロ事件を受けて、11日、メズアール外務・協力大臣率いるモロッコ代表団は仏大統領府を訪問し、仏に対してモロッコからの誠実なる甲意を表明した。
- (2) メズアール大臣は、同日行われた「共和国行進」には、預言者を冒瀆する風刺画がみられたために参加を見送った。
- (3) 同日朝、メズアール外相は、ファビウス仏外相とバイ会談を行い、詳細不明なるも、今次テロの影響や二国間関係について話し合ったものとみられる。

2 第3回モロッコ・スペイン議会合同委員会

- (1) 13日から15日まで、ラバトで、モロッコ・スペイン議会合同委員会が開催された。モロッコ側からはタルビ・アラミ衆議院議長、ピアディラ参議院議長、ドライス内務担当大臣が出席。スペイン側は、ポサダ下院議長、ガルシア＝エスクデロ上院議長他、両院議員等30名が出席。
- (2) 両国間の治安および国境管理に関する協力の有効性が確認された。

3 メズアール外務・協力大臣の訪仏予定

- (1) 1月後半、2014年2月以来冷却化している仏・モ関係修復に向けた動きが見られた。
- (2) ファビウス仏外相は15日、仏上院で、近いうちに自らがモロッコを訪問すると発言した。
- (3) メズアール外務・協力大臣は19日、19日の週にファビウス仏外相との会談等のためにパリを訪問予定であること、仏が特別な痛ましい状況にある中で、仏モ二国間関係の様々な側面の現状分析をする機会になるであろうことを表明した。仏外務省も19日の記者会見で、23日にメズアール外務・協力大臣の訪問が予定されていることを認めた。
- (4) 21日、仏外務省報道官は、23日に予定されていたメズアール外相の訪仏は延期され、新たな訪問日程を今後調整すると明らかにした。一部報道では、仏・モロッコ間において不和状態打開のための議論が欠如していることが延期の原因であるとされた。

4 ウアタラ コートジボワール大統領のモロッコ訪問

- (1) ウアタラ・コートジボワール大統領はモハメッド6世国王の招待により、20日から22日までモロッコを公式訪問(24日まで滞在)した。
- (2) 20日、国王および大統領はマラケシュ王宮で、治安、司法、環境、貿易、移民、教育、保健、宗教等に関する16件の協力協定・覚書等の署名式を主催した。
- (3) 21日、両首脳はマラケシュで開催されたモロッコ・コートジボワール経済フォーラムの閉会式に出席した。ウアタラ大統領はスピーチを行い、コートジボワールの安定した経済成長と良好な投資環境、コートジボワールは UEMOA および CEDEAO への入口であり、サブサハラへの経済進出の拠点となることを強調した。
- (4) 両首脳出席の下に両国間協力案件署名式が行われ、官民間(主にコートジボワール政府機関とモロッコ金融機関)および両国民間企業間の各種協力に関する24件の協力協定・覚書等が署名された。

5 モハメッド6世国王と潘基文国連事務総長との電話会談

(1) 22日、モハメッド6世国王と潘基文国連事務総長は電話会談を行った。平和維持活動、人間開発振興、過激主義との闘い、ポスト・ミレニアム開発目標、気候変動等の課題におけるモロッコの役割等について意見交換した後、事務総長は西サハラ問題に関して、国連責任者の中立性、客観的態度、公平性について確約した。事務総長はさらに、MINURSOは現行のマンデートを厳格に尊重して任務を継続する旨明らかにした。

(2) 国王は、事務総長の明確な説明と約束をもとに、ロス事務総長個人特使による活動を支持し、事務総長が任命する責任者と十分な協力を行うためのモロッコのコミットメントを確認した。

6 モロッコ・仏間の司法協力再開の決定

(1) 仏・モ両国法務省の共同声明によると、ラミッド法務・自由権大臣は1月29日および30日にトビラ仏法務大臣・国璽尚書との間で、両国間の司法協力停止を惹き起こした障害について協議し、31日に両法務相は両国間の司法共助条約を改正する文書に署名した。

(2) これによって、両国司法当局間のより有効な協力と情報交換の強化が持続的に可能となり、両国の司法協力はただちに再開される。

(3) メズアール外務・協力大臣は、両国関係は相互信頼に基づく新たな段階に入り、ジハーディストと闘う両国間の治安協力の全面的な再開にもつながると述べた。

(4) ラシダ・ダティ欧州議会議員(元仏法務大臣)は、国際情勢および仏国内情勢によって、テロとの闘いにおいて極めて有効であるモロッコとの協力がフランスにとって不可欠になっている、と述べた。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
1月5日	エジプト	メズアール外務・協力大臣	リビア情勢に関するアラブ連盟緊急外相会合
1月13日	エストニア	ブーアイダ外務・協力担当特命大臣	ライネルト外務副大臣等と会談
1月14-15日	フィンランド	ブーアイダ外務・協力担当特命大臣	トゥオミオヤ外相等と会談
1月15日	エジプト	メズアール外務・協力大臣	パレスチナ情勢に関するアラブ連盟特別外相会合
1月23-24日	サウジアラビア	ムーレイ・ラシッド王子、メズアール外務・協力大臣、トゥフィク永代財産・イ	アブドゥッラー前国王葬儀弔問

		スラム宗教大臣	
1月26-30日	英国	タルビ・アラム衆議院議長、ラシュガル人民勢力社会連合(USFP)第一書記他主要政党幹部	英国議会の招聘(英連邦議会連合オブザーバー申請支持要請)
1月27-29日 予定	パレスチナ自治区	アフイラル水利担当大臣	実務訪問(アッバース大統領、ハムダッター首相との会談、協力案件署名)
1月29-31日	フランス	ラミッド法務・自由権大臣	トビラ法務大臣との協議(司法協力再開について)

< 外国要人のモロッコ訪問 >

日付	国	氏名・肩書き	目的
1月6日	フランス	ギゲー国民議会外交委員長	ベンキラン首相、メズアール外務・協力大臣と会談
1月13-15日	スペイン	ポサダ下院議長、ガルシア＝エスクデロ上院議長他	第3回モロッコ・スペイン議会合同委員会(タルビ・アラム衆議院議長、ピアデイヤ参議院議長出席)、タンジェ地中海港視察
1月15日	英国	ジョイス・アヌレー外務・英連邦担当国務大臣	ベンキラン首相表敬
1月16日	エジプト	シュクリ外相	モハメッド6世国王謁見、メズアール外務・協力大臣と会談
1月20-24日	コートジボワール	ウアタラ大統領他	公式訪問 モハメッド6世国王と会談、協力案件協定署名
1月22-23日	ドイツ	シュタインマイヤー外相	モハメッド6世国王謁見、メズアール外務・協力大臣と会談
1月27-28日	イタリア	ジェンティローニ外相	公式訪問(ベンキラン首相表敬、メズアール外務・協力大臣、プーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談)

1月28-30日	EU	ランプリニディス人権問題 特別代表	ドライス内務担当大臣と 会談
1月30日	アイルランド	グリーン下院議員(外交 貿易委員長)	ベンキラン首相、ブーアイ ダ外務・協力大臣付特命 大臣との会談

(了)